

長尾福祉会報

平成27年4月1日

第31号



のぞみ園
ひな祭り茶会 (3月1日)

—長尾福祉会理念— 障害をもっているも もっていないくても 男も女も
「生まれておめでとう・成長しておめでとう・長生きしておめでとう」といえる
社会づくりをめざします。

もくじ

法人創立20周年目にあたり	2
共に生きる	2

●ハーティヴィラ亀鶴

ショートステイセンター	3
ヘルパーステーション	3
サービス付き高齢者向け住宅	3
ケアプランセンターゆたか	3

●ゆたか荘

祝15周年 いつも笑顔満開!	4
人生ゆたか 老後ゆたか	4
御利用者との生活の中で	5

●デイサービスセンターゆたか

明日からのデイサービス	5
頼り頼られる関係へ	5

●のぞみ園

日帰り旅行 男子	6
日帰り旅行 女子	6
日帰り旅行 南	6
日帰り旅行 通所・就労	6
人形劇	6
保護者の一言	7
児童デイサービス事業所	7
クリスマス会	7
ひなまつり茶会	7

新任職員紹介	8
ご支援ありがとうございました	8
助成	8
グループホーム建設	8
編集後記	8

社会福祉法人は、「社会、地域における福祉の充実・発展」に寄与することを使命とし、社会福祉事業の安定的・継続的経営に努めるとともに、多様な生活課題や福祉需要に柔軟かつ主体的に取り組む公共的・公益的かつ信頼性の高い法人です。

法人創立20周年目にあたり

社会福祉法人長尾福祉会 常務理事 森田 浩之

社会福祉法人長尾福祉会は平成7年に社会福祉法人を設立して今年で20年を迎えます。

この20年の間には社会福祉を取り巻く環境はめまぐるしく変化し続けてきました。福祉と言えは公的な措置が続くと思われていたものが、平成12年の介護保険制度を皮切りに、「公的措置制度から契約制度」へ移行し、多くの事業に社会福祉法人以外の民間営利法人が参入するようになりました。福祉事業も福祉サービス事業として区分されることが多くなり、一部の種別を除き、従来の福祉(最低保障)の概念が、消滅しかけていることは周知の事実です。

そのような実態に警鐘を鳴らすべく社会福祉のあるべき姿は何かという議論が最近多くなされるようになってきました。その一例が、格差社会が生み出す「生活困窮者問題」です。現在、香川県内でも、行政や社会福祉法人がネットワークをつくり、現物支援・就労訓練支援・生活困窮の世代間連鎖予防等の仕組みを構築する動きが活発化しています。その動き自体素晴らしい事業であると思いますが、あくまでも点に過ぎず、この点を含めた広域的かつ面的な活動を長尾福祉会としては考えていきたいと思っています。

これから先、地域経済や地域福祉を取り巻く環境は引き続き変化し続けると思いますが、法人創立時の理念を忘れず、その時代に対応した福祉課題の研究と実践にまい進してまいりたいと思います。

平成27年度 長尾福祉会 法人目標

あると安心、相談して安心、
利用して安心、働く安心
長尾福祉会

平成27年度 長尾福祉会 事業目標

- ①自法人のサービス評価と面的サービスの実現を向けての研究(制度の間の福祉ニーズの研究、生活困窮者対策、新たな福祉サービスの検討)
- ②地域包括ケアの実践(高齢者、障がい児・者)
- ③健全な法人経営と情報公開(法人本部機能強化、各施設の運営管理強化)
- ④次代を担う人材の積極的採用と育成(潜在的な人材の発掘、養成校・大学等連携)
- ⑤中長期事業計画の策定と法人理念の共有と発信

共に生きる

障害者支援施設 のぞみ園 園長 松本 正美

のぞみ園では、昨年焼延のおそれのある部分に設置していた倉庫等を移動、撤去して適法な距離を確保する工事を実施しました。併せて南寮に連結して、作業室、倉庫を増築しました。

また、長尾西の児童アイサービス事業所の敷地に、グループホームを新築しました。「のぞみホーム1号館」という名称で、定員が7名、短期入所2名の施設です。利用者が自立を目指し、地域において協同して生活を営むことができます。利用者が自立を目指し、地域において協同して生活を営むことができます。日中は就労継続支援施設等に出かけて生活し、夜間及び土、日、祝日にグループホームで生活します。生活支援員、世話人が常時つき、日常生活の援助をします。

障がい者が、地域の中で共に生活しようとするものであり、地域の皆様のご理解とご支援をお願いします。

本年度も、利用者の意思人格を尊重し、利用者の立場に立った福祉サービスを提供するため、職員一同努力して参りますので、ご支援、ご協力をお願いします。

平成27年度の目標と課題

目 標

- ①利用者の意思及び人格の尊重
- ②利用者の立場に立った
障害福祉サービスの提供
- ③就労支援への取り組みの推進
- ④障害児支援の強化
- ⑤相談支援事業の拡充

課 題

- ①各事業の円滑な実施と経営の安定
- ②的確な個別支援計画の作成と実施
- ③グループホームの充実した運営
- ④障害児通所支援事業の充実
- ⑤発達障害相談支援事業の充実
- ⑥リスクマネジメントの徹底
- ⑦安心・安全な生活環境作りと整備

シヨートステイセンター

ゆかいな鬼たちとの節分会

センター長 大黒 康子

今年もまた、鬼出沒の季節がやってきました。ここハーティヴィラ亀鶴にはどこかに住み着いているようで、毎年この頃になると人恋しくなるのか出てきます。

赤と青の派手な格好をした鬼たちが出て来ると、デイサービス、シヨートステイの利用者様みんなが共に協力して「鬼は外、福は内」と大きな声を出しながら鬼に向かって豆を投げつけます。そして、よくよく見るとどこかで見えたような「顔に気づき「これ食べまい」と豆を口に入れてくれる利用者様、「もつとこつち、こつち」と笑顔で呼んでくれたと思ったり近くで思いっきり豆をぶつけられたりと、あちこちで大きな笑い声が上がります。

ところが今年の鬼は一段と強くなったようで、豆では退治できません。仕方なくおまんじゅう作戦に変更、喜んで一口食べたままでは良かったのですが、突然ヒーヒーと苦しそうな表情に…実はこのおまんじゅう、あんこの中からしがたこぶりが仕込まれていたのです。からしを口に、悶絶する鬼にまたまた利用者様は大笑い。早々に鬼も退散となりました。

このように行事や催し物では、デイサービスの場所にシヨートステイの利用者様がおよばれて、みんなで一緒に楽しんでいきます。「今日は泊まつとんな」「今度また来るぞ」などとスタッフ、利用者様との会話も弾みます。これからも利用者様の笑顔をたくさん引き出せるよう、ハーティヴィラ亀鶴全体で協力していきたいと思っています。



ヘルパーステーション

サービス提供責任者 寺島 理香

この度、公益財団法人日本財団様より助成していただきました。利用者様の安全安心な在宅生活を支援させていただくために、大いに活用したいと思えます。ありがとうございました。



サービス付き高齢者向け住宅

生活支援スタッフ 谷口 陽子

亀鶴に植えてある、中庭の桜も3年目。細い枝はまだまだ頼りなく揺れていますが、土の中ではしっかりと根を張っていることでしょうか。亀鶴の土台であるわたしたち職員も、入居者様が毎日安心して暮らせるよう、縁の下を力持ちとして様々な支援をさせていただいています。入居者様の「ありがとう」という言葉が、わたしたちにとって何よりの栄養となり、毎日の活力となっています。

おかげさまで現在満室ですが、見学はいつでも可能です。お気軽にご連絡ください。



ケアプランセンターゆたか

センター長 鎌倉 節子

徐々に気候も良くなり、暖かく過ごしやすいなってきました。

昨年末から今年にかけてインフルエンザの流行があり体調を崩された方も多くおられたと思います。

ケアプランセンターゆたかでは、4名の介護支援専門員により利用者様の相談・家族様の相談を受けております。「介護に悩んでいる 1人で困っている」といったことはありませんか？介護支援専門員が利用者様ひとりひとりに合ったサービスの提案、相談業務を行っています。

香川県さぬき市長尾西1602番地1
08079-1231-6518

ゆたか荘

祝15周年

いつも笑顔満開！

ゆたか荘をご利用されている皆様方やご家族様、またたくさんの地域の方々に支えられて15周年を迎えられました事に、心より感謝申し上げます。15周年祝賀行事では、祝い膳を召し上がった後、さめき民俗芸能保存会の皆様による傘踊りや銭太鼓等、多彩な催しでご利用者の皆様を楽しませて頂きました。長年にわたり多くの方との出逢いがあり、ご利用者と一緒にご時間は、いつまでも素晴らしい思い出です。これからも地域との繋がりを大切にしながら、楽しい思い出や笑顔を増やしていきたいと思っております。

また、27年度の介護報酬改定では、施設を運営する側としては厳しい内容になっておりますが、ご利用者の視点に立ったサービスの提供と安定的運営に努めるとともに、職員研修の充実を図り、更なるサービスの向上と専門性を高めていけるよう努力して参りたいと思っております。

平成27年度の目標

- ご利用者満足度の向上
- 専門性の高いチームケアの提供
- 生きがいや喜びが感じられる 日常の提供
- 利用者の尊厳と想いを 大切にしたケア
- 福祉の啓発活動と地域貢献活動

ゆたか荘
施設長 朝倉 裕子



菊花展



地域交流餅つき大会



新年祝賀



バス遠足



人生ゆたか
老後ゆたか
日々の楽しみや
生きがい実現のために



くもん学習サロン会



前山小学生との交流



忘年会



家族会



節分行事



古里ながお文化祭



豊考舞会



ひな祭り茶会

職員紹介

御利用者との生活の中で

介護主任 木村 真吾

長尾福祉社に入社し、この四月で十一年目を迎えるようになっています。高齢者と向き合い、介護経験を積み重ねる中で、自身の介護観は多様に变化していきました。しかし、御利用者へ真摯に向き合いたいとの姿勢は十一年前より変わらず信念として持ち続けております。

御家族が御利用者と過ごす時間よりも、私達職員は、より多くの時間を共有する機会を頂いていることへの責任感を持つとともに、単に生活を支援する「仕事」として捉えるだけでなく、より身近な存在として心に寄り添い、御利用者・御家族がゆたか荘(施設)及び在宅(自宅)で過ごせるように環境を整えて行く事が大切であると感じております。

頼りになる職員・優しい職員・ユニークな職員等、職員一人ひとりが自身のカラーを持ち、「様々な職員がいて楽しい」「私、幸せや」「ゆたか荘なら安心して任せられる」と感じてもらうよう御利用者との生活を共にできればと思います。これからもごつきで、よろしくお願い致します。



デイサービスセンター ゆたか

明日からのデイサービス

センター長 矢野 勝久

四月からの介護保険改正でデイサービスにおいても、より内容の充実が求められています。在宅サービスの一つとして利用する方の心身状態の維持・向上はもちろん、家族支援への取り組みも今まで以上に考慮していかなければならないと考えております。

在宅生活を送る上での利用者・家族の方の不安を安心に変えていける事業所として新年度から努力してまいります。

今後皆様方のご支援、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。



フラワーアレンジメント教室

頼り頼られる関係へ...

生活相談員 木村 良美

「木村さん、ちよっと聞いて」最近、こんな言葉も。利用者の方との言葉を重ねていくことに距離感が縮まると同時により責任感が芽生えてくることを実感します。利用者個人ごとにサービスへの目的、在宅での悩み等、千差万別であり、その方に合った接し方が大切だと思っております。

相談員として、利用者・家族の方から話しやすい関係を構築していくと共に、各関係機関とより連携しながら在宅生活が未永く続けて頂けるよう取り組んでいきたいと考えております。



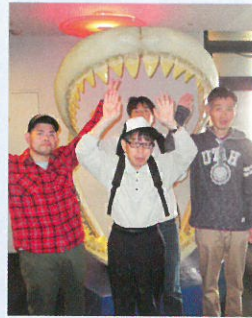


のぞみ園

男子 生活支援員 田中 歩

10月23日(木)、男子寮の利用者と保護者、職員で海遊館へ日帰り旅行に行ってきました。

海遊館では普段見られない空間にワクワクしながら、興味深そうにじっくり鑑賞されていました。天保山マーケットプレイス内では食事や買い物もでき、各々に好きなものを購入し、お土産を手に喜んでいる姿が所々で見られました。笑顔多く、久しぶりの県外への外出であり、皆さん大変満喫されており充実した一日となりました。



女子

生活支援員 橋本光佐子

10月21日(火)、秋晴れの下、バスで愛媛県にある日本食研の工場へ行ってきました。特に皆さんが楽しめたのは「食べる」と「買う」事でした。日本食研を見学後に、ポリウム満点のお弁当を食べたり、お土産を買いました。皆と一緒に訪れた地で見える景色や食べる食事は格別で、秋の遠足はとても良い思い出になりました。



南 生活支援員 宮下 義之

10月21日(火)、南寮は淡路島へ旅行に行きました。天気心が心配されましたが、幸い秋晴れの心地良い日となりました。まず訪れたのは「淡路ワールドパークONOKORO」。広い園内で乗り物に乗ったり、ミニチュアワールドを鑑賞したり、皆さんそれぞれの時間を楽しみました。また、昼食は淡路島の特産品をあしらった豪華な食事で「食」でも淡路を堪能しました。次に、「たごせんべいの里」へ行き、お土産など買い物もしました。久しぶりの県外旅行という事で、充実した旅行となりました。



通所・就労

生活支援員 植田 俊二

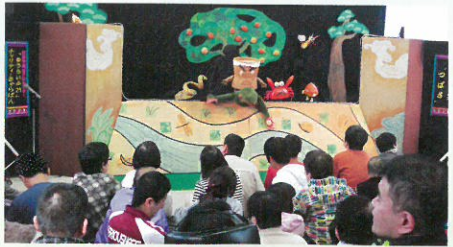
10月22日(水)、神戸どうぶつ王国、神戸UCC博物館へ多くの保護者も参加し楽しみの旅行に出かけました。どうぶつ王国では、小鳥などにふれあうことができたこと、UCC博物館ではコーヒーの味見、製造工程など興味深く見学し、一日笑顔が絶えない楽しい旅行ができました。



人形劇

生活支援員 増田 朋子

日産労連NPOセンター「ゆづらいふ21」の方々が来演され、大変豪華な人形劇を披露してくださいました。利用者の方々も参加できるものであり、皆さんとても喜ばれていました。「楽しかった」「感動した」「また来てほしい」といった声もたくさん聞かせてきました。



とてもたのしかったです。かにとあくしゅできて、うれしかったです。さるが、かんさいべんを、しゃべっていて、おもしろかったです。
利用者 伊藤 恵

保護者の一言



有馬 悦子

のぞみ園入所までの出来事

東部養護学校高等部を卒業後、竜雲少年農場に入所しました。この頃は、すごく元気良く、反抗期でもあり、難しい大変な時期でした。自然いっぱい農場の生活。本人も一生懸命だったと思います。ある日、帰省の際迎えに行くと、本人は木の根を掘っており、私を見つけると汗いっばいで慌てて走って来ました。1ヶ月に1回5〜6日程しか帰省できず、帰省の度に大変喜んでおりました。春に満開の桜、色あざやかな美しい花々、木々、新緑と、いい空気の中で過ごしていました。しかし、6年で退所しました。

通所に2年間通い、次に白鳥園に入所しました。海がきれいで果てしない地平線、よせてくる波、心もなごみ景色のいい所でした。そこで3年間過ごしました。

その後、真清水荘の通所へ1年間通い、やっこののぞみ園に入所しました。

松木正美園長、職員の方々の御指導、また思いやり、優しさ、気さっぱり、感謝しています。本人はまして機嫌よく園での生活を送れており嬉しく思います。このままでいつまでも生活出来たらと願っています。よろしくお願います。私達もがんばります。



児童デイサービス事業所

「ひとりでもできるもん」

発達相談支援専門員 滝川 敬教

ぼく、4歳、動き回ることが大好き！

去年の6月に児童デイサービスに通うようになった。ボールプールや積木で遊んで楽しかった。でも勉強やおやつの時間になると職員のAさんが「お片づけ」と歌いながら片付けをするように言う。僕はいつも抵抗をした。やがて「お片づけ」の歌を聞くと自然に片付けができるようになった。

ある時、紙おむつで過ごしていた。職員のBさんが布パンツをはかせ、その上から紙おむつをはかしてくれました。いつものようにおしっこをするとパンツがぬれて、気持ちが悪かった。あつ、おしっこが出て、でも気持ちが悪くなる、じつとしてみると、トイレへ連れて行ってくれた。トイレでおしっこをするとパンツをぬらすことなく気持ち悪くならなかった。それからおしっこはトイレでするようになった。そんな僕を見てママは大喜び。ひとりでもできるもん。えっへん！

児童デイサービスでは、一人ひとりに合った支援を行っています。今後ともよろしくお願います。



クリスマス会

生活支援員 齊藤久美子

クリスマスイヴの12月24日に開かれたクリスマス会では、プロの音楽家の北井さんと穴倉さんによるライブショーが行われました。美しい歌声と素晴らしい演奏に皆さん聴き入っていました。

各寮で練習してきた出し物を披露し、全員で楽しく合唱も行いました。サンタさんからの、サプライズなプレゼントに大興奮の皆さんでした。



ひなまつり茶会

生活支援員 谷本久美子

3月1日(日)に第19回ひなまつり茶会が行われました。お世話になってる地域の方々への感謝の気持ちを込め、県庁の邦楽研究会様による琴と尺八の生演奏や利用者の皆さんによるお点前やお運びで、おもてなしをいたしました。

利用者の方々は、日頃の練習成果が発揮できたと、満面の笑みを浮かべていました。



私はひなまつり茶会で、お点前とお運びをしました。笑顔で楽しくできました。また、桃太郎の貼り絵を皆に見てもらいました。楽しかったのでまた来年もしたいです。

利用者 長端 節子

